MITSUBISHI
三菱クリーンヒーター®
〈密閉式石油ストーブ〉

形名
VKB-991L2 （集中管理システム対応品）

据付工事説明書

販売店・工事店さま用

別冊の「取扱説明書」はお客さま用です
必ずお渡しください

もくじ

	ページ
安全のために必ず守ること	2～5
据付工事の前に	6
開　梱	7
据付方法（標準据付け）	
壁穴工事	8
標準給排気工事	9～11
製品の設置と固定	12～13
延長給排気工事	14～15
油タンクの据付け	16～19
集中管理システムの子機の取付け	20～21
据付工事後の点検・確認	22
試運転	23

■据付工事を始める前に、必ずこの説明書をよくお読みになり正しく安全に据付けてください。
■据付工事は販売店・工事店さまが実施してください。
■お客さま自身で据付工事をしないでください。
（ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、油漏れの原因になります）
※お客さま自身で据付工事をされた場合の故障・事故に関しては保証できない場合があります。
■据付工事部品は必ず付属の部品および当社のシステム部材をご使用ください。
（付属部品およびシステム部材を使用しないと、故障の原因になります）
■買い替えの場合も新しい給排気部品、ゴム製送油管を使用して据付工事を行ってください。
（排気筒はずれ検知装置が誤作動したり、排気ガス漏れ、油漏れの原因になります）

安全のために必ず守ること

●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠危険	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が死亡や重傷などに結びつくもの
⚠警告	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
⚠注意	作業を誤った場合に、据付工事作業者または使用者が傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

●図記号の意味は、次のとおりです。

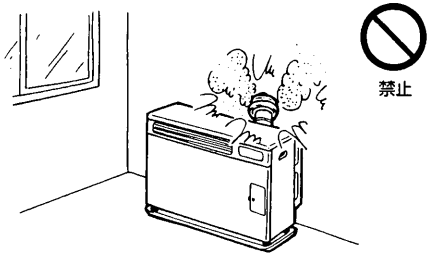
⃠	禁　止
❗	指示に従い必ず行う

据付場所の確認

据付場所を決めるときはお客さまと相談してください。

⚠危険

屋内給排気厳禁
お客さまご自身では据付工事をしない

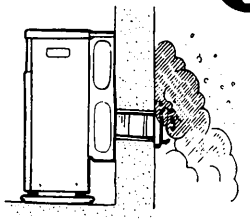


（異常燃焼し、一酸化炭素中毒の原因になります）

⚠警告

給排気筒トップは閉そくしない場所に設置

積雪の多いときに、給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。



（運転中に排気ガスが室内にもれて危険です）

据付けや移動は販売店へ依頼する

（ご自分で据付工事をされ、不備があると排気ガス漏れ、感電、火災の原因になります）

据付けは火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る

安全のために必ず守ること

据付場所の確認

⚠注意

次のような場所には据付けない

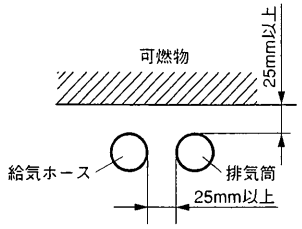
- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定なものを乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●温室、飼育室など人のいない場所

（火災や予想しない事故の原因になります）

- ●浴室など湿気の多いところに据付けない

（感電の原因になります）

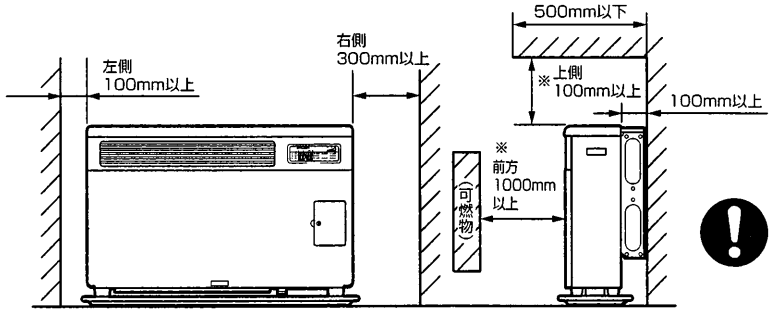
排気筒は周囲の可燃物から25mm以上（排気筒半径）離すこと



付属の置台の上に据付けること

可燃物との距離を離す（製品周囲の可燃物・障害物との離隔寸法を確保する）

この製品は（財）日本燃焼機器検査協会の防火性能認証を受けたものですので上側600mm以上の制限を受けず、下記寸法で据付可能です



※ 上側寸法100mm以上については取はずしできない棚下で本体背面の壁穴に給排気工事を行う場合は接続工事に300mm 以上必要です。また上側が100～300mm 未満で据付ける場合は左右のどちらかで300mm 以上必要となります。

※ 前方寸法については火災予防条例では1000mm以上ですが温風の回り込みによる室温調節の誤作動防止のため1500mm 以上で使用してください。

給排気について

⚠警告

床下給排気禁止
必ず屋外に排気してください

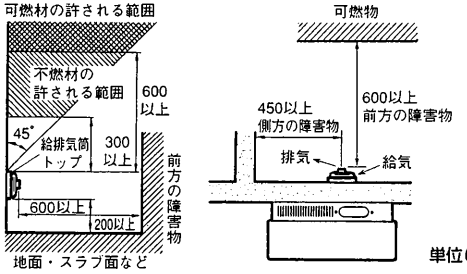
（排気ガスが室内に漏れ危険です）

給排気筒を確実に接続
給排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください

（風、振動、衝撃などで、はずれたりすると運転中に排気ガスが室内に漏れ危険です）

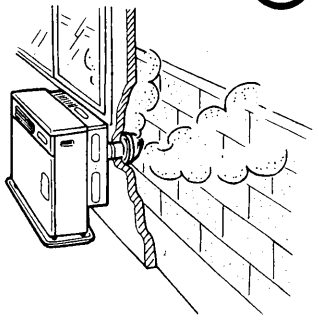
⚠注意

給排気筒トップは、十分開放された空間に取付ける
下図の寸法は防火上の必要寸法です



単位(mm)

排気ガスを滞留させない
給排気筒トップは、周辺に建築物の突出物等や障害物のあるところには取付けない



（排気ガスが給気側へ流入すると運転停止〔E-01〕，〔E-13〕することがあります）

高層建築の集合煙突を利用しての給排気工事は絶対行わない

（運転停止したり、不完全燃焼の原因になります）

排気ガスに注意
愛がん動物や植木などに排気ガスをあてない

（動物が死んだり、植木が枯れる原因になります）

排気ガスが室内（隣家も含め）に入りやすいところには据付けない

（室内空気が汚染されます）

2台以上据付ける場合は各々の給排気壁穴の間隔は、水平方向に500mm以上、垂直方向に1m以上離す

（排気ガスの給気口への吸い込みによる運転停止や不完全燃焼の原因になります）

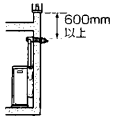
給排気について

⚠注意

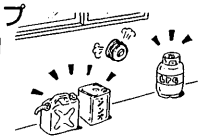
給排気筒の点検
（取付けが終ったら、もう一度点検してください）
次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼をおこす恐れがあるので点検する

1. 接続部のゆるみ点検
2. 給排気筒トップは屋外に向かって下り勾配のこと
3. 給排気筒トップと開口部との距離は離す

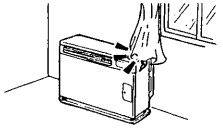
周囲の開口部から下方600mm以上、側方150mm以上離す（暖房機を据付けた部屋の窓や浴室の窓等は除く）



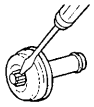
4. 給排気筒トップ付近の危険物近接禁止



5. 可燃物近接禁止



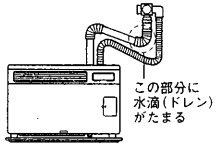
給排気筒トップを改造しない
（火災・不完全燃焼の原因になります）



延長給排気について

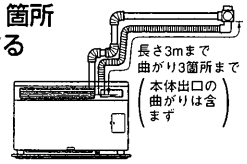
⚠注意

排気筒の途中に水滴（ドレン）がたまるようなへこみ部をつくらない



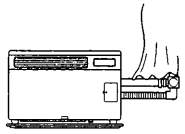
（排気ガス中のドレンが排気筒内にたまり、運転停止や、不完全燃焼の原因になります）

給排気の延長可能な長さは3m以内で、曲がり3箇所以内とする



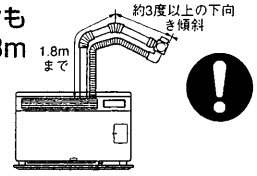
（これ以上長く延ばしたり曲がりが多くなりますと燃焼空気が不足し、運転停止や、不完全燃焼の原因となります）

カーテンなど可燃物を排気筒に接触させない



（火災の原因になります
排気筒の近くにカーテンなどの燃えやすいものがある場合は、100mm程度以上離すか、配管カバー［システム部材］を使用してください）

排気筒のドレンもどり長さは1.8m以内とする



（燃焼によって発生する水滴［ドレン］のもどりは、排気筒長さが1.8m以上になると、製品内部にドレンがもどり、燃焼器を腐食させることがあります。そのために1.8m以上の排気筒には給排気筒トップに向って約3度以上の下向き傾斜をつけてください）

据付工事の前に

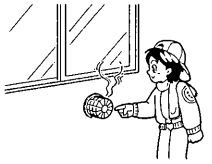
据付け前のお願い

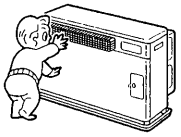
給排気筒トップの先端（排気口）からドレン（水滴）が池に落下したり腐食させる恐れがあるところには取付けない

特殊環境（温泉害、塩害、大気汚染、化学薬品を使用する場所）には据付けない
（腐食・劣化の原因になります）

標高1000m以上の高地に据付けないでください
（1000～1500mで据付ける場合は電磁ポンプのリード線をシステム部材「高地対応用リード線」VKZ-15LDSに取り替えてください）

小さなお子さまが触れるようなところに取付けられる場合は、トップガード、グリルガード（システム部材）をおすすめください



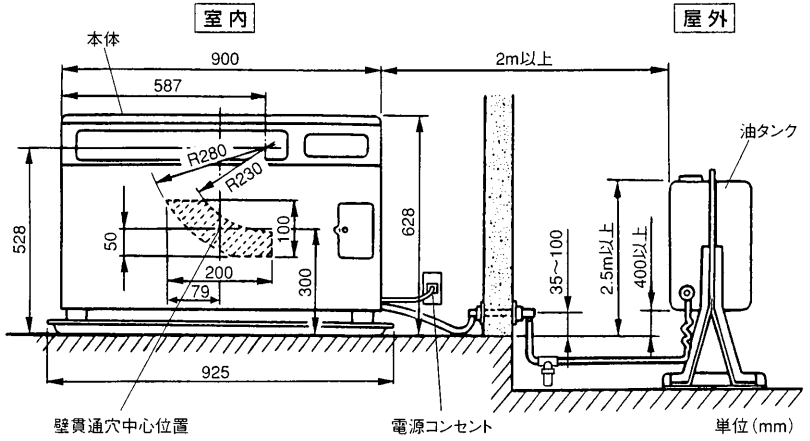


（やけどの原因になります）

熱に弱い床面は保護する熱に強いマット類を敷いてください
（吹出口前方の床面は40～50℃程度になります。床面によっては変色したり、変形・収縮することがあります）

直接日光の当たる場所に据付けないでください

壁穴・油タンクの位置確認

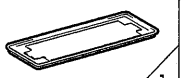
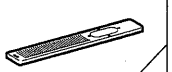
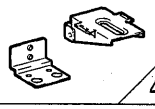
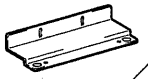
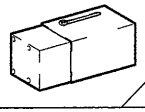
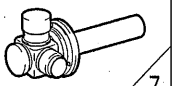
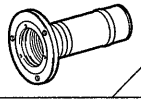
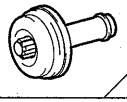
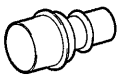
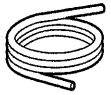


- シーズン終了時に電源プラグをはずしたり、送油コックを閉めるために電源コンセントや送油コックが製品の裏側にかくれないようにしてください。
- 付属の給排気筒トップで取付け可能な壁厚は115～240mmまでです。
- 壁厚が240mm以上の場合は下表のシステム部材をご使用ください。

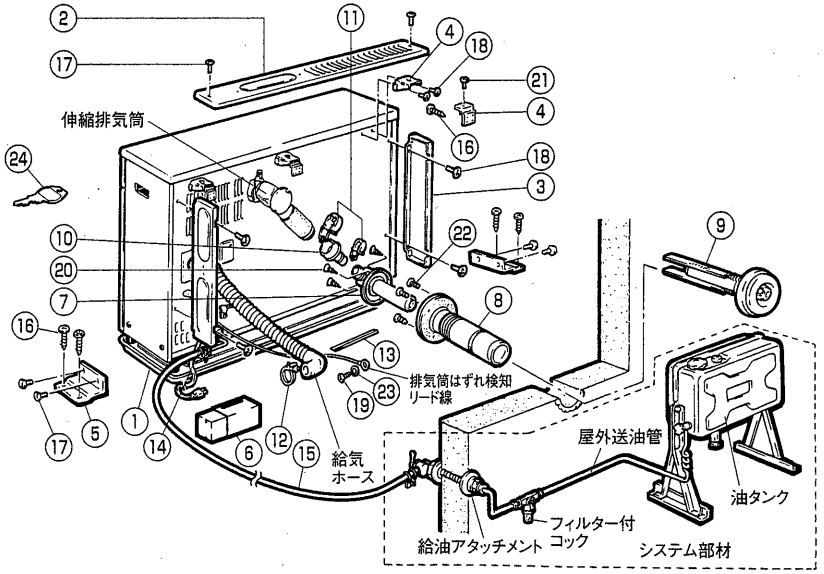
品　　名	取付け可能な壁厚
薄形給排気筒トップVGZ-40WT10	240～400mm
薄形給排気筒トップVGZ-60WT10	400～600mm
薄形給排気筒トップVGZ-80WT10	600～800mm

開梱

付属部品の確認

置台……1個  1	背面カバー(上)…1個  2	背面カバー(左右)…2個 3	壁固定金具セット…3個  4	床固定金具……2個  5
排気筒カバー……1個  6	チャンバー室……1個  7	スリーブ……1個  8	トップ本体……1個  9	ジョイントパイプ…1個  10
C形ストッパー……2個 (大・小 各1個) 11	給気ホースバンド…1個 12	コードバンド……2本 13	送油管バンド……2個 14	ゴム製送油管……1本  15

青ネジ(4−25)……10本 壁・床固定用 16	黒ネジ(4−8)……6本 背面カバー(上)用 2本 床固定金具用 4本 17	メッキネジ(PTT4−8)……10本 壁固定金具本体側 6本 背面カバー(左右)用 4本 18
白ネジ(4−6)……1本 排気筒はずれ検知リード線用 19	皿ネジ(4−10)……3本 チャンバー室用 20	ナベネジ(5−10)……3本 壁固定金具合わせ用 21
スペシャルナベネジ(4−20)……3本 スリーブ用 22	歯付座金……1枚 23	錠……1個 24



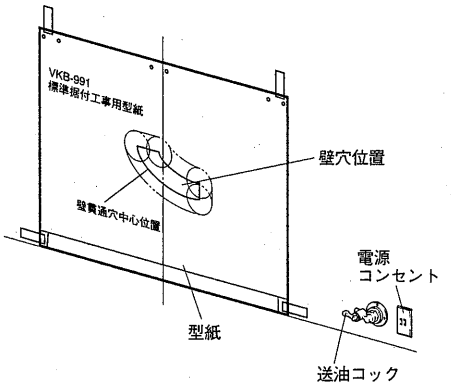
据付方法(標準据付け)

壁穴工事

お願い

- 穴をあける際、壁内のスジカイ・電気配線・ガス・水道の配管などに当たらないところを選んでください。
- ラス網等は十分カットし、これらの金具部分に給排気筒トップが接しないよう電気的絶縁を行ってください。〔電気設備技術基準(第203条)参照〕
- シーズン終了時に電源プラグをはずしたり、送油コックを閉めるために電源コンセントや送油コックが製品の裏側にかくれないようにしてください。

1 壁穴位置決め …… 標準給排気方式

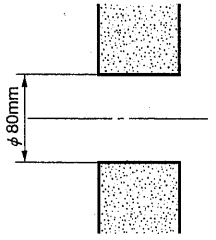


1. 型紙を据付位置の壁面に貼り付ける。
2. 壁取付金具固定位置を壁にしるしする。
3. 型紙の壁穴位置範囲内で壁穴位置を決める。

買い換え据付けの場合

型紙を使用し、現行の壁穴が壁穴位置範囲内かを確認する。

2 壁穴あけ

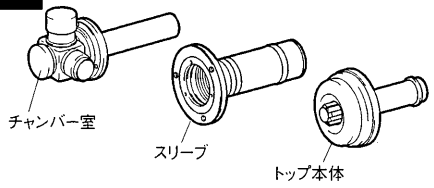


φ80mmホールコアドリルで壁面に対して直角にまっすぐあける。

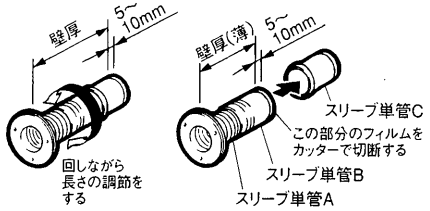
据付方法(標準据付け)

標準給排気工事

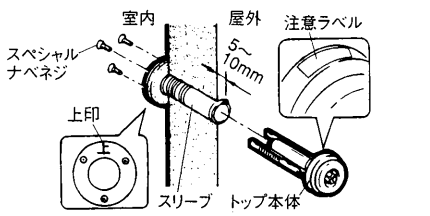
1 給排気筒トップの取付け



1. 給排気筒トップをトップ本体・スリーブ・チャンバー室に分離する。



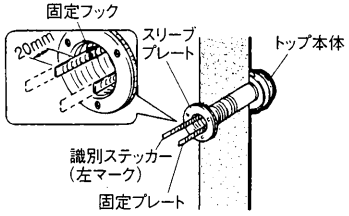
2. スリーブは壁厚に応じて長さの調整をする。
   - ●スリーブを回しながら端面が壁面より5〜10mm出る長さに調整する。
   - ●壁厚が薄い場合はスリーブ単管Cを切り離す。
3. スリーブを室内側から差し込む。
   - ●「上」印を上にして付属のスペシャルナベネジ(4-20)3本で固定する。



お願い

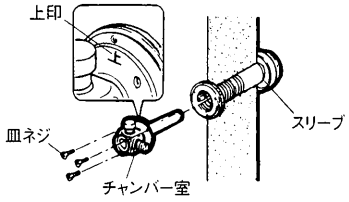
- **●スリーブを壁穴に差し込む際は表面の絶縁被覆(うす緑色)を切らないよう、ラス網等は十分にカットしてから差し込んでください。**

4. トップ本体を屋外からスリーブに差し込む。
   - ●注意 ラベル を上にする。
5. 室内側からトップ本体を固定する。

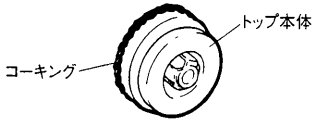


(1)固定プレートを引っ張り、スリーブの固定フックに引っ掛ける。
   - ●左側に識別ステッカーがくるようにする。
   - ●固定プレートの穴数で2〜3穴分引っ張る。

(2)飛び出している固定プレートを外側に曲げる。
   (20mm程残して金切バサミなどで切断し、内側へ曲げても良い)



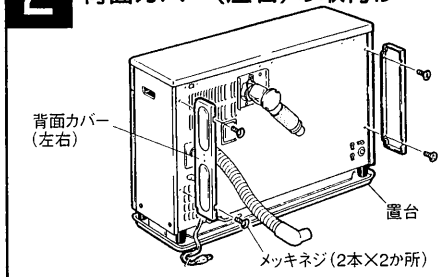
6. チャンバー室をスリーブに固定する。
   - ●「上」印を上にして付属の皿ネジ(4-10)3本で固定する。



7. 屋外側のトップ本体全周をコーキングして雨水の浸入防止をする。

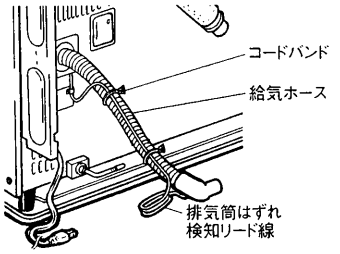
標準給排気工事 つづき

2 背面カバー(左右)の取付け



1. 本体を置台の上に置く。
2. 背面カバー(左右)を付属メッキネジ(4-8)4本で本体背面に取付ける。

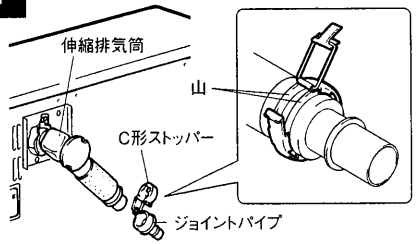
3 排気筒はずれ検知リード線を給気ホースに固定



排気筒はずれ検知リード線を給気ホースにそわせて付属コードバンド2本で固定する。

- ●余ったリード線は本体側で束ねてクリップで固定する。

4 伸縮排気筒にジョイントパイプを接続

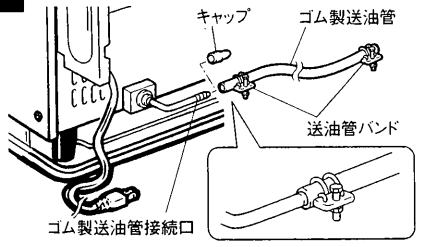


本体の伸縮排気筒にジョイントパイプを差し込み、C形ストッパー(大)で抜け止めをする。

——C形ストッパーのかけかた——

C形ストッパーは伸縮排気筒の山とジョイントパイプの山をまたいではめ込み、バンドを掛けて固定する。

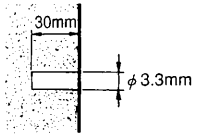
5 ゴム製送油管の取付け



1. ゴム製送油管に送油管バンド2個を両端から通す。
2. ゴム製送油管接続口へゴム製送油管を奥まで差し込み、送油管バンドを締め付け固定する。
   - ●接続口が右側の場合は、17ページを参照ください。

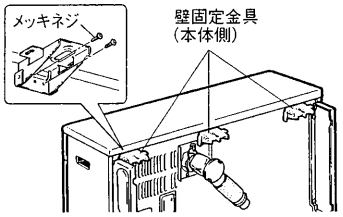
6 製品固定の準備 …… 壁固定と床固定があります。

壁・床がコンクリートの場合

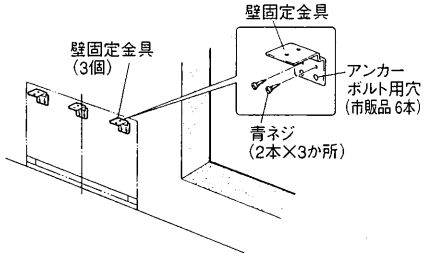


固定する位置に下穴をあける。
(下穴φ3.3mm 深さ30mm)
固定をアンカーボルト(M10)で行う場合は壁・床固定金具の大きい穴の位置にあらかじめ埋込む。

壁固定の場合

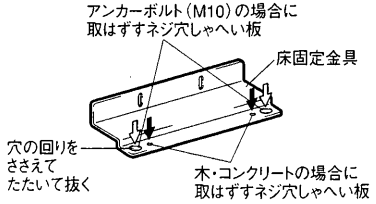


1. 壁固定金具(本体側)3個を付属のメッキネジ(4-8)各2本で本体背面に固定する。

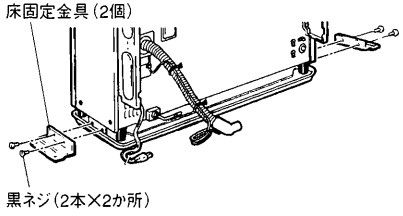


2. 壁固定金具(壁側)3個を付属の青ネジ(4-25)各2本で型紙を使用してしるしをした位置に固定する。

床固定の場合



1. 床の種類により床固定金具のネジ穴しゃへい板を打ち抜く。

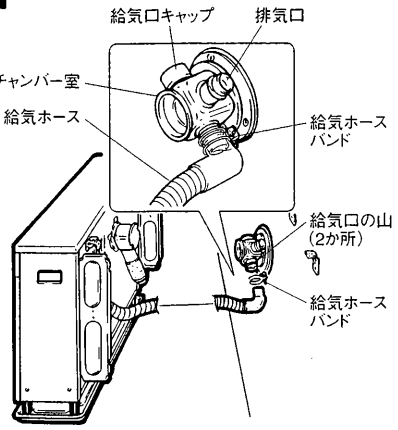


2. 床固定金具を本体両側面に付属の黒ネジ各2本で取付ける。

据付方法(標準据付け)

製品の設置と固定

1 給気ホースの接続



1. 付属の給気ホースバンドを給気ホースに通す。
2. 給気ホースをチャンバー室の給気口に差し込み、給気ホースバンドで固定する。
   ●チャンバー室には給気口が2か所あります。取付けやすい給気口を選び接続する。
   使用しない給気口には給気口キャップを必ず取付ける。

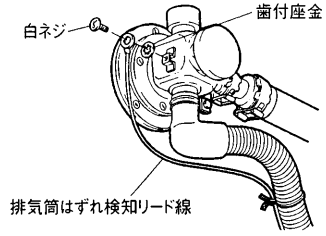
お願い

●チャンバー室の排気口と給気口を間違えないでください。

―― 給気ホースバンドのかけかた ――

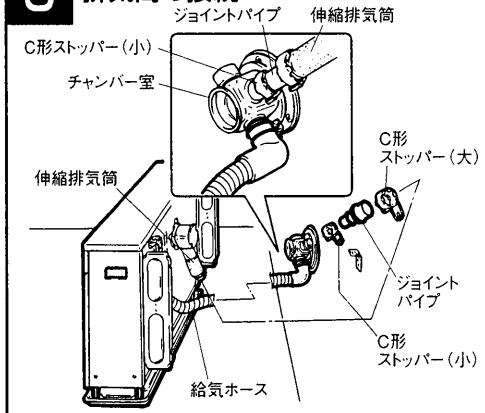
給気ホースバンドは給気口の山をまたぐようにかけてネジを締め付け固定する。

2 排気筒はずれ検知リード線の接続



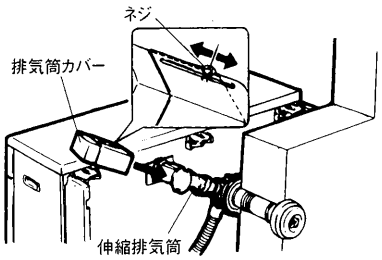
1. 排気筒はずれ検知リード線を歯付座金を介して付属の白ネジ1本でチャンバー室に固定する。
2. 排気筒はずれ検知リード線のたるみを無くすようコードバンドを付け直す。

3 排気筒の接続



1. 本体を移動しながらジョイントパイプをチャンバー室の伸縮排気筒に接続し、C形ストッパー(小)で抜け止めをする。
   (据付工事説明書10ページ参照)
2. 接続後、伸縮排気筒・ジョイントパイプを軽く引っ張って確実に固定されていることを確認する。

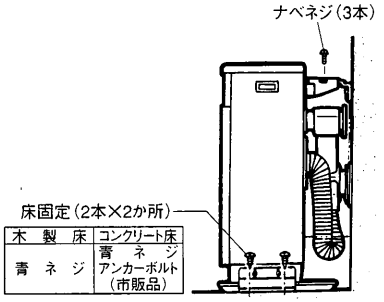
4 排気筒カバーの取付け



1. ネジ2本をゆるめ、長さを調節し、ネジを締め付ける。

2. 矢印の方向から排気筒カバーを伸縮排気筒に差し込む。

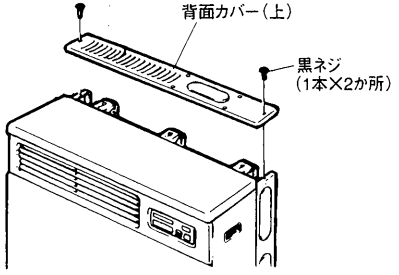
5 壁固定金具の固定・床固定金具の固定



木製床	コンクリート床
青ネジ	青ネジ アンカーボルト (市販品)

- 壁固定金具(本体側と壁側)を付属のナベネジ3本で固定する。
- 床固定金具を付属の青ネジ4本で固定する。

6 背面カバー(上)の取付け



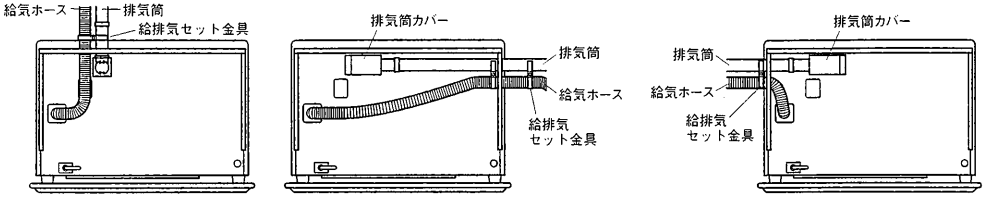
1. 電源コード・排気筒はずれ検知リード線・給気ホース・壁が排気筒から25mm以上離れているか確認する。

2. 背面カバー(上)を付属の黒ネジ2本で背面カバー(左右)に固定する。

延長給排気工事

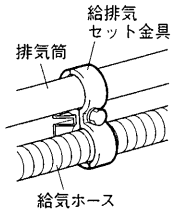
標準給排気工事ができない場合に延長給排気工事を行いますが、据付場所に応じてシステム部材の給排気セットが必要です。使用する工事部品は付属部品とシステム部材としてください。延長工事詳細については当社のシステム部材に同梱の「取付工事説明書」をお読みください。

上側・左側・右側への延長給排気工事要領〈システム部材を使用〉



お願い

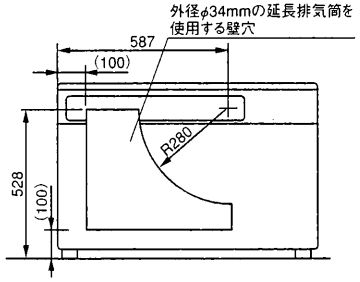
- 上側・左側・右側へ延長給排気工事を行う場合は、給排気セット金具を使用して給気ホースと排気筒を25mm以上離してください。
  (接触すると給気ホースが溶けて異常燃焼するおそれがあります)
- 排気筒の長さより給気ホースの長さを極端に短かくしないでください。
  給気ホースの長さを排気筒の長さと同等か長めにしてください。
  (異常音が発生することがあります)
- 横引き配管する場合は給気ホースを排気筒の下側になるようにしてください。
  (給気ホースが上側の場合たれて排気筒に接触することがあります)
- 可燃壁貫通するときはシステム部材のメガネ形ブッシュ(VGZ-5BU9)を使用してください。
  (使用しないと低温発火の原因になります)



本体投影面内で延長給排気工事する場合

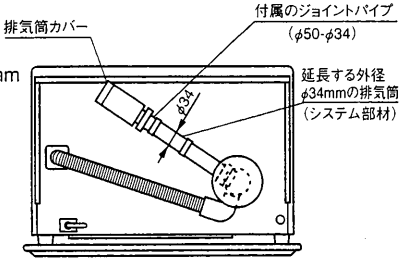
本体投影面内(本体後部)に壁穴があるが、標準給排気(付属部品での給排気)工事ができなく、システム部材を使って延長給排気工事をする場合は延長する排気筒は外径φ34mmの排気筒を使用してください。

〔外径φ50mmの延長排気筒(ロング排気フレキZ VGZ-30FZ9、L形排気フレキZ VGZ-5FZL9など)を使用した場合、点火時に燃焼共鳴音が発生する場合があります。〕



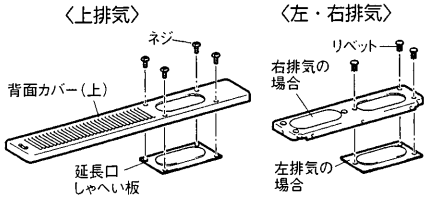
使用する外径φ34mmの延長排気筒

VGZ-4PZ2
VGZ-8PZ2
VGZ-14P2
VGZ-30P2
VGZ-3FZL2
VGZ-30FZ2



※外径φ34mmの排気筒を使用できるのは本体投影面内排気だけです。本体から外へ延長給排気工事をする場合は、必ず外径φ50mmの排気筒を使用してください。

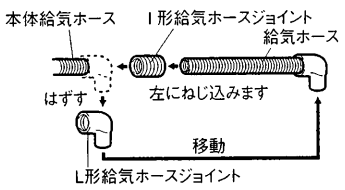
1 背面カバーの延長口をあける



〈上排気〉
ネジ4本をはずして延長口しゃへい板をはずす。

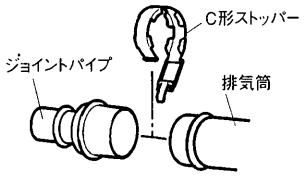
〈左・右排気〉
リベット3本をはずして延長口しゃへい板をはずす。

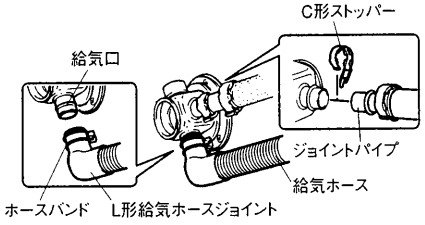
2 給気ホースを延長する



1. 本体の給気ホースについているL形給気ホースジョイントをはずす。
2. システム部材の延長用伸縮管セットに付属のI形給気ホースジョイントをねじ込み、給気ホースを延長する。
3. 延長した給気ホースの先端にL形給気ホースジョイントを取付ける。

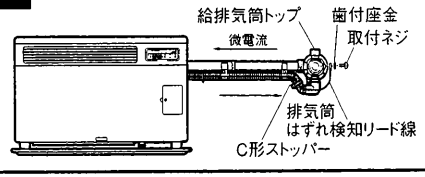
3 排気筒の延長と給排気筒トップとの接続





1. 排気筒接続部にはC形ストッパーをはめ込む。
   - ●取付後ストッパーがきいているか排気筒を引っ張って確認する。
2. 排気筒にジョイントパイプを接続し、給排気筒トップの排気口に接続する。
3. C形ストッパーで抜け止めを行う。
   (据付工事説明書10ページ参照)
4. L形給気ホースジョイントの先端に給気ホースバンドを差し込む。
5. L形給気ホースジョイントを給排気筒トップの給気口に差し込み、給気ホースバンドで固定する。

4 排気筒はずれ検知リード線の取付け



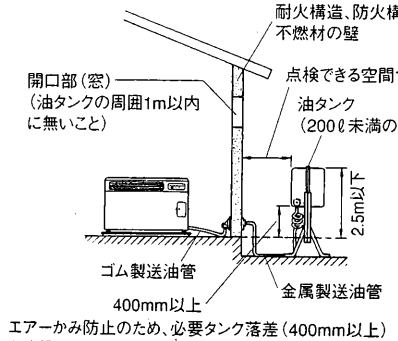
給排気筒トップに排気筒はずれ検知リード線の先端を、はずしたネジと歯付座金で取付け、給気ホースにそわせて付属のコードバンドで固定する。

油タンクの据付け

油タンクおよび必要なシステム部材の据付けは、各々に同梱の説明書に従ってください。

条 件

⚠注意 油タンクとの距離を離す

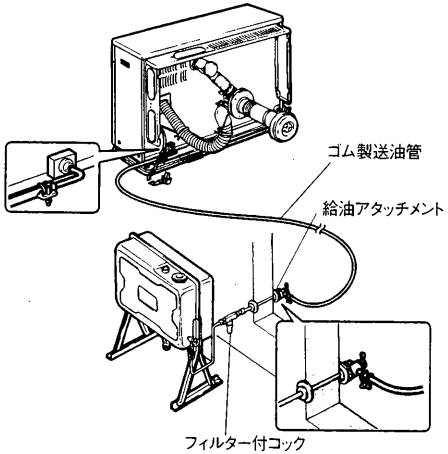


エアーかみ防止のため、必要タンク落差(400mm以上)を確保してください。

- ●付属のゴム製送油管が短い場合は当社サービス部品のゴム製送油管3m品(M45508260)をご使用ください。
  油タンク屋内設置の場合 製品 ― 油タンク間
  油タンク屋外設置の場合 製品 ― 給油アタッチメント間
- ●油タンクはアンカーボルトで床に固定するなど、転倒防止の処置を必ず行ってください。

- ●油タンクは、畳・じゅうたんなどの上に据付けないでください。
- ●油タンクは、製品との間に防火上有効な壁などがない場合には2m以上離してください。
- ●油タンク落差は、左図のように400mm以上、2.5m以下としてください。低すぎると油が製品に供給されず、また高すぎると定油面器内で灯油がしゃ断され燃焼を停止したり、定油面器から油がこぼれることがあります。大型タンクを戸外に据付ける場合も、左図の落差を守ってください。
- ●油タンクの据付けは各地の**火災予防条例に従ってください**。わからないときは、お近くの消防署におたずねください。

ゴム製送油管の取付けかた



⚠注意

ゴム製送油管の屋外使用禁止

ゴム製送油管は屋外で使用しない
(ひび割れを生じて油漏れの原因になります)

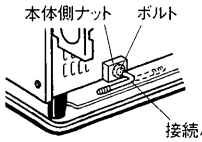
1. 本体に接続したゴム製送油管の先を給油アタッチメントの接続口へ差し込む。
2. 送油管バンドを締め付け固定する。

お願い

- ●**ゴム製送油管の先端を、極端に曲げて、「ゴム製送油管接続口」に接続すると、ゴム製送油管がひび割れを生じて、油漏れの原因となるので行わないでください。**
- ●**ゴム製送油管の途中が山形にならないようにしてください。**

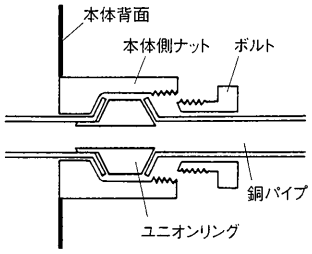
ゴム製送油管の取付けかた つづき

給油口を正面から見て右側配管する場合



1. 本体側のナットをスパナ等で固定する。
2. ボルトをゆるめ、接続パイプを180°回転させ、ボルトを締め付ける。
（締付トルク：19.6N・m）

銅パイプ(外径φ8mm)の取付けかた

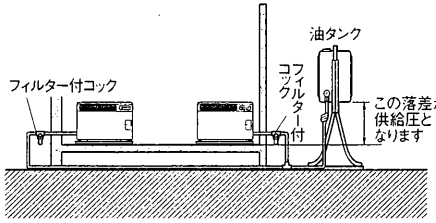


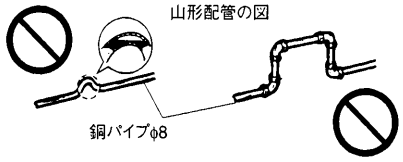
1. 本体側のナットをスパナ等で固定し、ボルトをゆるめて接続パイプをはずす。
2. ボルトを銅パイプに通し、先端をフレア加工する。
   ●銅パイプはシステム部材のVKZ-20を使用してください。
3. ユニオンリングが傾かないよう銅パイプを差し込み、ナットを固定して、ボルトを締め付ける。(締付トルク：19.6N・m)

屋外送油管について

屋外の送油管は必ず金属配管を使用してください。
下表のシステム部材をご利用ください。

品　名	形　名
銅配管セット	VKZ-20
給油アタッチメント	VKZ-02B・VKZ-04B
フィルター付コック(金属配管用)	VKZ-8K



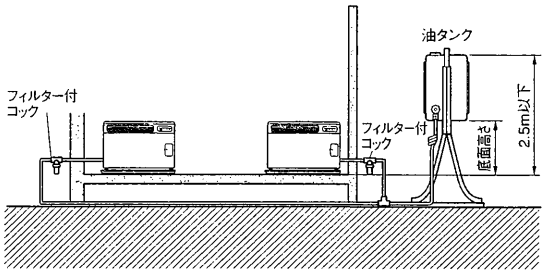


屋外の送油管は必ず金属配管を使用する。
●当社の配管用システム部材は銅パイプ(外径φ8、内径φ6.4)用です。
●鉄パイプはドレンで錆びたり切粉が本体内に入りトラブルの原因になりますので、本体付近の配管途中にフィルター付コックを必ず取付ける。
●配管内に空気だまりができないよう、山形の配管をしない。
山形配管をすると頂点に空気がたまり、灯油の流れを止めることがあります。
●本体と油タンクの送油管延長は20m以内にする。

油タンクの据付け つづき

集中配管工事

1台の油タンクから複数のストーブへ給油する工事



●集中給油の限度

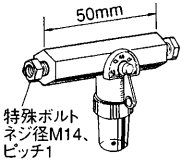
油タンク	配管太さ	配管長さ	設置台数	油タンク底面高さ
別置タンク(VKZ-90L2)(VKZ-60L2)	銅パイプ(外径φ8mm)	約20mまで	4台まで	400mm以上
100ℓを越え500ℓ未満の市販タンク	3/8銅管	約50mまで	8台まで	1m以上
	1/2銅管		13台まで	

市販のタンクで油タンク底面高さが500mmの場合設置台数は半分になる。

フィルター付コックの取付け

フィルター付コック
(VKZ-8K)

※銅パイプ(外径φ8、内径φ6.4)接続用



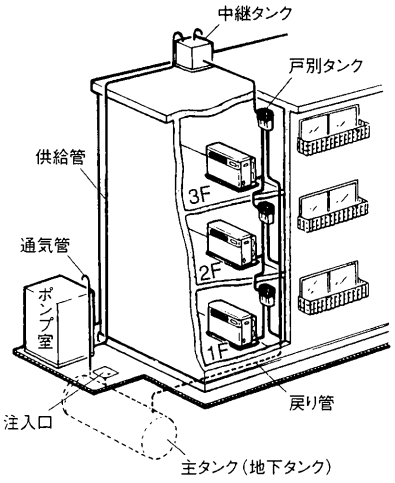
集中配管システムの場合は、各本体付近の送油管の途中にゴミストレーナの機能を持ったフィルター付コック(システム部材VKZ-8K)を取付けてください。取付けないと配管内の切粉、ゴミ等が定油面器に入り、油漏れの原因となります。

油タンクについての法規

(1)油タンクが200～1000ℓ未満の場合
●設置届けが必要な地方では、各地の火災予防条例に従ってすみやかに届け出を行ってください。
●油タンクを設置した場所の見やすいところに危険物の「品名」「種類」「最大量」を記載した標識をつけてください。

(2)油タンクが1000ℓ以上の場合
●所轄の消防署へ危険物取扱主任者と油タンクの設置届けを出し、完成検査を受けてください。
(危険物の規制に関する政令第19条および消防庁の運用基準を参照してください。)
●大規模な集中給油工事をする場合は、専門の設備業者に相談してください。

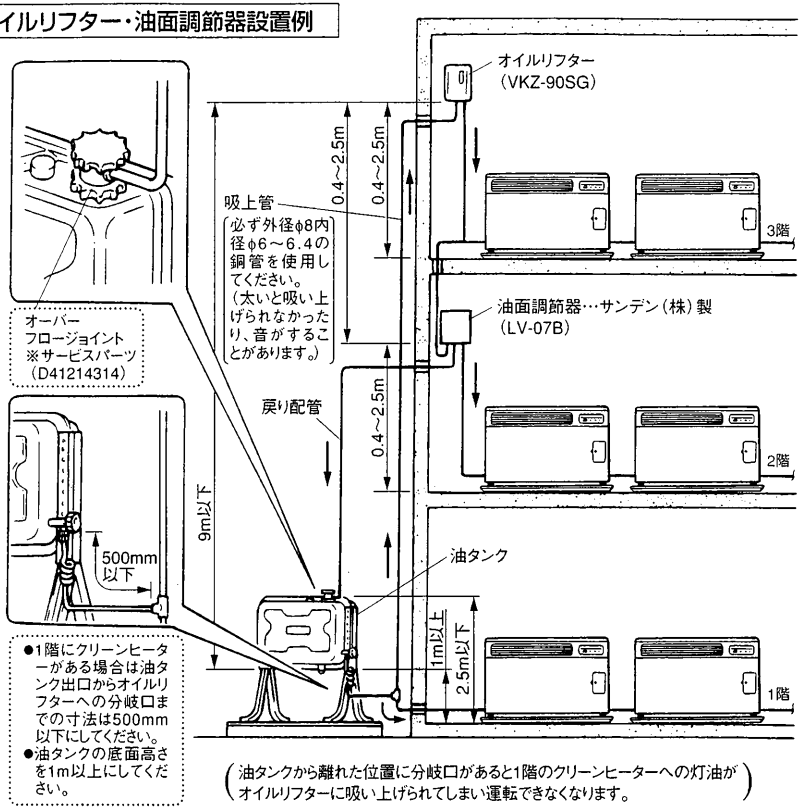
油集中配管工事例



高所への給油

高所への給油にはオイルリフター(システム部材:VKZ-90SG)を設置すると便利です。

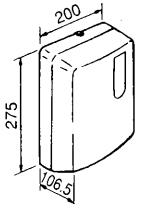
オイルリフター・油面調節器設置例



(油タンクから離れた位置に分岐口があると1階のクリーンヒーターへの灯油がオイルリフターに吸い上げられてしまい運転できなくなります。)

オイルリフター

(1)外径寸法図　単位(mm)



品名	形名	適用機種	梱包数
オイルリフター	VKZ-90SG	タンク別置タイプ	1

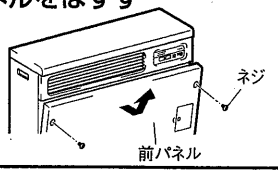
(2)仕様

形名		VKZ-90SG
最大揚程	m	10
吸上量(揚程6m、横引0m)	ℓ/h	19以上
接続パイプ外径	mm	8
消費電力(50/60Hz)	W	14/16
クリーンヒーター設置可能台数のめやす	台	4
外形寸法	mm	高さ:275 幅:200 奥行:106.5
質量	kg	3
騒音(1m位置)	dB(A)	38

集中管理システムの子機の取付け

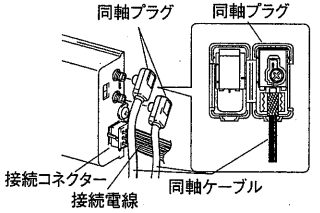
子機はVCL-03DCです。
VCL-03DCは製品内部の前面に取付けます。

1 前パネルをはずす



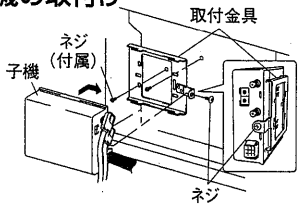
1. ネジ2本をはずす。
2. 下側の引掛部をはずして、前パネルをはずす。

2 子機に結線をする



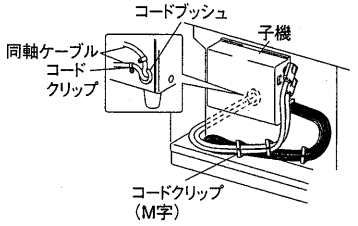
1. 同軸ケーブル(2本)を製品背面のコードブッシュを通して内部に引き込む。
2. 子機の部屋番号をセットし、子機に付属のシールに油性ペンで記入し、本体側面に貼り付ける。
3. 同軸プラグに同軸ケーブルを差し込む。
4. 同軸プラグを子機に接続する。
5. 本体内の接続コネクターを子機に接続する。

3 子機の取付け



1. ネジを一旦はずして取付金具をはずす。
2. 取付金具を子機に付属のネジ2本で本体に取付ける。
3. 子機を取付金具に差し込み、はずしたネジで固定する。

4 配線の固定



1. コードクリップ(M字)で配線を固定する。
   ●図のように同軸ケーブル・接続電線をまとめて固定する。
2. 背面の同軸ケーブルをコードクリップで固定する。

5 元通り前パネルを取付ける

メモ

- ●同軸ケーブルおよび接続電線は、排気筒に接触しないようにする。
- ●同軸ケーブルは、いたずらなどから保護するため、配線管にて配線する。
- ●同一配線管内での電源線との併設はしない。
  （雷時のノイズなどによる誘導障害防止のため）
- ●同軸ケーブルは、両側の背面カバーから下側に配線する。
  （上すぎると背面カバーと壁の間にすき間ができ、壁固定金具が取付けできない場合があります）
- ●集中管理システムについては親機に付属の取扱説明書、据付工事説明書を参照してください。

据付工事後の点検・確認

据付工事が終わりましたら、下表に従ってもう一度点検・確認をしてください。

不具合がありますと火災・排気ガスのもれおよび不完全燃焼の原因となりますので必ず取付けなおしをしてください。

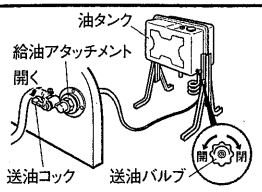
点検箇所		点検項目	参照ページ	チェック結果
製品		製品の回りは必要な空間がありますか。	3	
		床面の不安定な場所に据付けてありませんか。	3	
		丈夫な床面に製品が固定してありますか。	3	
		製品・ゴム製送油管から油漏れはありませんか。	16	
		ゴム製送油管を屋外で使用していませんか。（屋外は金属配管）	16	
		ゴム製送油管が排気部品に触れていませんか。また、送油管に急激な曲がりはありませんか。	取扱説明書 19	
		標高1000m以上で使用していませんか。（1000～1500mの場合、標高設定が必要です）	6	
油タンク		変質灯油、不純灯油を使用していませんか。油漏れはありませんか。	取扱説明書 10	
		油タンクの据付けは基準寸法が守られていますか。	6	
給排気部品		給排気筒トップの周囲は基準寸法が守られていますか。	4	
		排気筒は壁や給気ホースなどの可燃物から25mm以上離れていますか。	3	
		給排気筒のはずれ・ゆるみがありませんか。	5	
		排気ガスが屋外へ排気されるようになっていますか。	4	
		給排気筒トップの取付けが屋外に向って下り勾配になっていますか。	5	
		給排気筒トップの周囲に障害物（樹木・愛がん動物・雪のふきだまり）はありませんか。	4	
		給排気筒トップの周囲に危険物（灯油・ガソリン・プロパンガス）はありませんか。	5	
		トップ本体が確実に取付けられていますか。	9	
		トップ本体の給気口・排気口がビニール袋などの異物でふさがっていませんか。	－	
		集合煙突に給排気筒を取付けた工事はされていませんか。	－	
	延長工事	床下・天井裏へ給排気してありませんか。	4	
		壁埋込みの配管工事はしてありませんか。	14	
		排気筒の長さは給気ホースに比べ極端に長くなっていませんか。	14	
		給気ホース・排気筒の長さは3m以内で曲がり数3箇所以内ですか。	5	
		排気筒の途中に水がたまるようなへこみ部はありませんか。	5	
		排気筒のドレン戻り寸法は1.8m以下になっていますか。	5	
		古い排気筒を使用していませんか。	－	
		排気筒の接続部はC形ストッパーで確実に固定されていますか。	10	
電気配線		電源プラグはコンセントに確実に差し込まれていますか。	23	
		電源コードは高温部に触れていませんか。	13	
		電源コンセントは電源プラグの抜き差しが容易な位置にありますか。	6	
		ノイズの影響を受けやすいテレビやステレオなどを同じコンセントで使用していませんか。	－	
排気筒はずれ検知リード		排気筒はずれ検知リード線は、給排気筒トップに接続されていますか。	12	
		排気筒はずれ検知リード線は、給気ホースにそって固定されていますか。	10	

試運転

お客さま立合いで試運転を行ってください。

運転準備

1

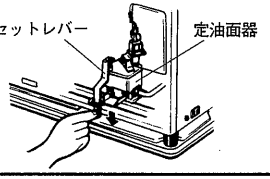


油タンクに給油した後、油タンクの送油バルブと給油アタッチメントの送油コックを「開」にする。

お願い

●変質灯油、不純灯油などは、使用しないでください。

2



定油面器のリセットをする。

(1) 定油面器のリセットレバーを下へ1回下げる。

(2) リセットレバーが元の位置に戻っているかを確認する。

3 電源プラグをコンセント(単相100V)に確実に差し込む。

運　転

●カギをあけて操作パネルを開く。

個別運転の場合	集中管理システム運転の場合
①運転切換スイッチを「個別」にする。 ②運転スイッチを押して「入」にする。 運転ランプが点灯し、数分後に温風が吹き出します。その状態で約15分間運転して、異常表示等が出ないか確認する。 ③運転スイッチを押して「切」にする。 運転ランプが消灯し、温風はしばらくして自動的に止まります。	①個別運転の①～③を行う。 (個別運転が正常に行われるか確認します) ②運転切換スイッチを「個別」から「集中」に切換え、運転スイッチを「入」にする。 ③集中管理システムの親機により、正常に運転されるかを確認する。 ④運転スイッチが「入」、運転切換スイッチが「集中」になっているか確認して、操作パネルを閉めカギをかける。

●設定温度より室内温度が高い場合に試運転するときは温度ランプを点灯させ [上がる] ボタンを押し「H」を表示させると最大燃焼量で連続運転を行う。

●連続運転は自動的に約10分間で解除されるが [下がる] ボタンを押しても解除される。(設定温度を22℃に戻す)

●油配管のエアーは試運転を行うことにより抜けます。(配管が長い場合はエアーが抜けるまで時間がかかります)

●油漏れがないか確認してください。

お客さまへの説明

1. 取扱説明書によって製品の取扱いを説明してください。
2. 保証書に必要事項を記入のうえ、保管のお願いをしてください。
3. この据付工事説明書は引っ越しなどで製品を移動する際に必要となりますので、取扱説明書とともに必ずお客さまに渡して、一緒に保管してくださるようお願いしてください。
4. ゴム製送油管はひび割れが無くても3年に1度必ず新しいものに交換していただくようお願いしてください。

製品を廃棄するときの注意

製品を廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。リサイクルの支障となります。

三菱電機株式会社
群馬製作所　〒370-0492　群馬県新田郡尾島町岩松800

この説明書は、再生紙を使用しています。